

# 心理臨床コース臨床心理学領域のご案内

※設置申請書提出中のため予定であり、記載内容は変更となる場合があります。

人間性豊かで、実践力のある心理職を目指して！

## 実践的で学際的な教育研究

本コースのカリキュラムは非常に盛りだくさんで、厳しいものです。心理職として働くための専門的訓練、とくに、臨床心理学と精神医学の基礎知識を身につけ、共感的理解に努める態度や感性を養うことを重視しています。実践的力量育成の一環として、関係諸機関との連携による学外施設実習も積極的に行っています。

## さまざまな専門性をもつ教員

学校教育領域、医療保健領域、福祉領域等、さまざまな分野を専門とする教員が揃っています。各分野における専門的な知識と実践を学び、多様な領域で活躍できる高度な実践的力量を有する心理職（公認心理師・臨床心理士）、および生徒指導・教育相談の実践的力量を有する現職教員の育成を目指します。

心理臨床コース  
臨床心理学領域

## 4つの特色

### 専門的できめ細やかなゼミ指導

専門的できめ細やかなゼミ指導のもと、修士論文の作成に取り組みます。ゼミの指導教員は、院生の希望を尊重しますが、最終的には教員で調整し、例年5月頃に決定しています。また、教員間で連携した授業や指導体制により、ゼミ担当以外の教員から指導を受ける機会も豊富にあります。心理臨床家として広い視野を持つことができます。

### 多彩な経歴をもつ仲間たち

大人数の仲間がいて、卒業後すぐに入学してくる院生（ストレートマスター）だけでなく、現職の学校教員や社会人経験者など、様々な経歴をもつ院生が多く在籍しています。学校現場をはじめとする、多様な現場や領域の話を聞くことができます。多彩な経歴、出身、年齢の学生が、お互いのよさを認め合いながら、同じ目標に向かって切磋琢磨しています。

◎問い合わせ先：〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 鳴門教育大学 臨床心理士養成コース  
コース長 吉井健治 TEL 088-687-6291 E-mail kyoshii@naruto-u.ac.jp  
大学院入試委員 小倉正義 TEL 088-687-6325 E-mail mogura@naruto-u.ac.jp  
URL <http://www.naruto-u.ac.jp/course/clinical/>

2018年5月1日

# 心理臨床コース臨床心理学領域の実習

本学には附属の「心理・教育相談室」があり、院生は教員の指導を受けながら、実際にカウンセリングやプレイセラピーを行います。また、学外施設実習にも積極的に取り組んでいます。下記のような、さまざまな領域や施設の中から、実習先を選択します。臨床心理士や公認心理師の受験資格の取得のため対応可能な実習を準備しています。今後もさらに実習先の充実につとめていきます。

## 学外施設実習・その他の実習（平成30年度）

実習領域・実習種別	実習内容
[教育領域・施設実習]	
スクールカウンセラー実習	小学校・中学校・高等学校で、スクールカウンセラーの補助的活動を行う。
教育支援センター実習	教育支援センター（適応指導教室）で、不登校傾向の児童・生徒の心理的支援を行う。
総合教育センター実習	教育センターにおいて不登校等の中高生のグループ活動を行う。
学生相談実習	短期間で大学生への学習と心へのサポートを行い、学生相談のシステムについても学ぶ。
[福祉領域・施設実習]	
児童養護施設 生活・学習支援実習	児童養護施設において児童・生徒の生活支援や学習支援を通して心の支援を行う。
児童養護施設 プレイセラピー実習	児童養護施設において児童・生徒のプレイセラピーを中心とした心理療法の実習を行う。
乳幼児健診実習	乳幼児健診の場において、子どもの発達のアセスメントの実習を行う。
発達相談実習	保育所・幼稚園への巡回相談や、地方自治体で行われる発達相談において、親と子への心理的支援の実習を行う。
[医療領域・施設実習]	
病院実習（短期）	病院における心理職の業務について参加型実習を行う。
病院実習（長期）	病院における心理職の業務について参加型実習を行う。
[その他]	
訪問臨床実習	ひきこもり傾向の不登校児童・生徒、ひとり親家庭の児童・生徒などを対象に、家庭訪問による心理的支援を行う。
心と学習の支援実習	学習に困難さのある小学生、定時制の高校生に学習支援を通して心理的な支援も行う。
学生相談プラクティカム	大学生のボランティア・クライアントに対してカウンセリングを行う。
ペアレント・トレーニング実習	子育て支援の一環としてのペアレント・トレーニングに関する実習を行う。
復職・再就職支援実習（5日間）	保健管理センターにて、復職・再就職のための認知行動療法に関する実習を行う。

（注）実習の内容や施設の都合により、人数制限があります。また実習種別、内容、時期等は年度によって変更することがあります。

# 鳴門教育大学 大学院心理臨床コース 臨床心理学領域ってどんなところ？

～入学前に気になる情報をまとめてみました～

## <取得できる資格>

4年制大学等で必要な単位を取得し卒業した後、本学大学院で必要な単位を取得し修了すれば、国家資格である公認心理師の受験資格を得ることができるようにカリキュラムを準備しています。また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する臨床心理士の受験資格も得ることができます。受験資格を得るだけでなく、即戦力となるような実践力の要請に力をいれています。

## <社会人の比率>

例年、社会人経験者（現職教員含む）が入学者の2～4割ほどを占めています。現職教員のほかに、公務員、銀行員、専門職、専業主婦、退職後の人等、さまざまな経歴の人がいます。

## <学内で開かれている勉強会等>

公務員試験対策や臨床心理士・公認心理師試験対策など、院生が自主的に開いている勉強会等がいくつかあります。また、徳島県臨床心理士会が開催する研究会に、院生時代から参加できます。

心理学専攻じゃなかったけど、大丈夫かな...?

## Q.1

大学では心理学を専攻していませんでした。大学院の専門的な勉強についていけるのかどうか心配です。

### A.

心理学系以外の学科や学部出身者も多く、授業は専門的知識がなくても分かるところからスタートしますので、大丈夫です。大学院で基礎からしっかり身につけて下さい。授業やゼミで文献も紹介しますし、質問も歓迎です。心理系以外の学科や学部出身者も臨床心理士の受験資格は取得することができます。ただし、公認心理師の受験資格のためには4年制大学等で必要な単位を取得し、卒業していることが必要です。

## Q.2

教育大学なので、教育領域の実習や講義に力を入れているのですか？就職は教育関係に限られるのでしょうか？

### A.

教育大学ですので、教育領域の教育研究や実習に力を入れています。同じくらい、医療保健領域、福祉領域など他の領域についても同じくらい力を教育研究や実習に力を入れています。また修了生は、全国各地、様々な領域の施設に就職し、活躍しています。就職先や実習については、詳しくは次からのページをご覧ください。

医療領域に興味があるけど、教育大学だから、あまり学べないかなあ。



## <就職状況>

過去の修了生の進路です。修了後は、幅広い分野で活躍しています。

### 修了生の主な就職先

※現職教員は除いています。

- 教育領域**…教育委員会（スクールカウンセラーなど）、教育支援センター（適応指導教室指導員など）、大学（学生相談員など）、小中高等学校・特別支援学校（教員など）
- 福祉領域**…児童養護施設（心理職・生活指導員など）、情緒障害児短期治療施設、母子生活支援施設、児童発達支援センター、発達障害者支援センター、児童発達支援事業所、地域若者サポートステーション、青少年支援センター、保育所など
- 医療領域**…総合病院、精神科病院、精神科クリニック、小児科クリニックなど
- 司法・矯正領域**…警察、少年院、少年鑑別所など
- その他**…地方公務員心理職・福祉職、企業、大学教職員など

※大学院博士課程進学や研究生を選択する方もいます。

※北海道から沖縄まで幅広い地域に修了生が就職しています！

## \*\*\* 先輩の仕事の現場 \*\*\*

### スクールカウンセラー

私は現在スクールカウンセラーをしています。複数の学校を担当させていただいており、曜日ごとに担当の学校を勤務しています。仕事の内容は、児童生徒へのカウンセリング、保護者や教員へのコンサルテーション、不登校児童への家庭訪問などを行っています。担当の学校が小学校、中学校、高等学校、特別支援学校と4つの学校種であったり、同じ小学校でも地域によって違った文化や特徴があるため、スクールカウンセラーという仕事に慣れるだけでも大変ですが、それぞれの学校に慣れ、それに合わせて考えたり動いていくことの難しさを日々感じています。難しいことばかりですが、関わる方々がしんどさがありながらもそれを乗り越え、少しでも元気になっていく過程を共にできることにやりがいを感じています。仕事をする上で、大学院でのケースやスーパーバイズ、授業や実習、先生から言われた言葉などがよく思い出され、実践の中で生きています。また、いつも同期の仲間には助けられています。皆さんも、大学院での経験と仲間を大切にしてもらえたらと思います。（伊藤健太・H27年修了）

### 病院心理職

私は現在、精神科病院の心理士として勤務しています。主な業務は心理面接や心理検査ですが、患者様一人ひとりへのアセスメントを、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士と協働して考えるカンファレンスの機会も多くあります。こうした多職種と連携を図ることは非常に大事ですし、そのなかにあって心理士が担う役割も非常に大きいものがあると思います。具体的には、心理面接や心理検査を通して得られた情報を整理して、それをもとに心理的な状況や特性、発達上の過程や現在の環境を考え、どういった支援ができるのかを提示します。患者様とは一対一で関わることも多いのですが、心理面接と心理検査では、患者様の希望に合っているのか、尊重できているのかなどを含め、現実検討も考慮した関わりが特に重要なこととして求められます。そのため、患者様と関わる際には、常に慎重さが必要です。

今こうして心理士として病院で働けていることの能力の基礎は、鳴門教育大学大学院で培われたものと実感しています。大学院時代の、個々が持っているケースを多くの先生や仲間と一緒に考えるケースカンファレンスの授業は、特に勉強になりましたし、先生とマンツーマンで行うスーパーバイズの時間も多くあり、今の自分を支えてくれる礎となっています。その他にも、大学院の外部の人との交流が持てる実習も数多く設けられており、なにより、鳴門教育大学大学院の臨床心理士養成コースは一学年の人数が多いので仲間がたくさんできます。私自身、仕事でつまずいたときには大学院時代を振り返り、先生に教わったこと、仲間と話し合ったことを思い出しながら、日々の仕事と取り組んでいます。先生方からは授業の枠を超えて様々なことを教えていただける機会も多くあり、仲間と色々なことを経験したり感じることでできたりする場がこの大学院には多くあると思います。大学院時代の経験は、私にとって、これからも忘れられることのできない貴重な時間となっています。（山崎聡・H27年修了）